

スポーツで友情を深める 姉妹都市の海老名市、登別市とスポーツ交流大会



7月27～28日の2日間、本市の柔道選抜選手10人と役員8人が登別市を訪れ、「登別・白石スポーツ交流大会」に参加しました。28日の試合では、登別市と白石市選抜2チームが団体戦で対戦。2試合が行われ1勝1分で白石市選抜が勝利しました。また、8月3日には、「海老名・白石スポーツ交流大会」が白石川サッカー公園で開催。海老名市選抜A・Bと、本市のFC白石ジュニアーズ、大平サッカークラブの4チームが、20分ハーフで各2試合を行い、2勝2分けで海老名市が勝利しました。

猛暑の中行われたそれぞれの大会。選手たちは暑さに負けず、スポーツを通じて友情を深めていました。



1～3_登別市とのスポーツ交流。本市の選手たちが登別市を訪れ、柔道で対戦した。
4_海老名市とのスポーツ交流。海老名市の選手たちが本市を訪れ、サッカーで対戦した。

片倉小十郎と陸奥ゆかりの武将たち 白石城天守閣で戦国武将画展



1_オープニングセレモニーに出席した正子さん(左)。今回の武将画展は、平成24年9月、正さんが東北旅行に来た際、戦国武将隊奥州片倉組の片倉小十郎景綱からの声掛けが縁。武将画展には、正さんの作品が好きで聖地巡礼に来たという歴史ファンなど、多くの人たちが詰め掛けた。
2_智勇を兼ね備え、独眼竜伊達政宗の参謀として活躍。笛の名手としても知られ、能く風流を愛した初代片倉小十郎を描いた作品。

7月20日～8月18日までの30日間、武将イラストの第一人者として知られる東京の絵巻作家正子さん(まさきこ)さんが描いた戦国武将画展が、白石城天守閣で開かれました。会場には、白石城主片倉小十郎景綱や仙台藩祖伊達政宗など、陸奥ゆかりの武将をコンピュータグラフィックスで描いたイラストやフィギュア約30展が展示されました。時代背景から人物の内面までを鮮明に描き出した作品ばかりで、初日からたくさんの人たちでにぎわいました。

7月20日に行われたオープニングセレモニーに出席した正さんは、「白石城も東日本大震災で大きな被害を受けました。少しでも震災からの復興の力になればうれしいです」と話していました。

走る広告塔として大きな期待！

原付きバイクに交付する「ご当地ナンバープレート」の交付がスタート



原付きバイクに交付するナンバープレートに市独自のオリジナルデザインを施した「ご当地ナンバープレート」の交付が8月1日からスタートしました。

初日は次々に市民が交付手続きに訪れ、この日だけで67枚のナンバープレートを交付しました。交付第1号となったのは、齋藤明さん(大鷹沢三沢)。齋藤さんは午前8時過ぎ、110ccのナンバーを変更するため市役所を訪れ、「ポチ武者こじゅーろうのナンバープレートに交換したくて早めに来ました。下一桁が「1」のナンバーを受け取ることができてとてもうれしいです」と話してくれました。

8月2日には、配達などに使用するバイク全36台に「ご当地ナンバープレート」を導入した白石郵便局で出発式が行われました。大和田尚局長は、「走る広告塔として白石市のPRに努めるとともに、地域に優しい運転を実践し、交通死亡事故ゼロに取り組んでいきます」と、あいさつしました。

1_白石郵便局で行われた出発式、2_交付第1号となった齋藤さんに、ご当地ナンバープレートを交付、3_50cc以下1番乗りの工藤美佐子さん(福岡蔵本)。「キャラクターやデザインがすごくいい。バイクでいろいろな所を走ります」と笑顔！

ご当地ナンバープレート

対象車種は、排気量50cc以下、90cc以下、125cc以下の3種類で、交付枚数は50cc以下が800枚、90cc以下と125cc以下は各100枚の計1,000枚です。交付手数料は無料。新規登録のほか、従来のナンバープレートからの変更も可能です。詳しくは、市役所1階税務課(☎22-1313)までお問い合わせください。

水環境の大切さを学ぶ

白川小奥で小川と仲良くなろう

8月8日、白川小奥地区環境資源保全隊(佐藤勇二代表)主催の「小川と仲良くなろう」が白川小奥地区で開催され、白川3区・5区の子どもの会の小学生とその保護者約40人が参加しました。この日は、土手川などで採取した水の汚染度合いを試験薬で調べたり、水温や川幅、川の水の速さ、周りの草花の様子などを調べたりしました。その後、網を使って小川に入り生き物を採取。参加した児童は、「ヤゴやゲンゴロウ、メダカ、ドジョウ、カワエビなどたくさんの生き物を見つけました。きれいな川に生息する生き物だと知ってとてもよかったです」と笑顔で話してくれました。



▲土手川で生き物を採取。水環境の大切さを学びました。